

傍線部③「無力な自分に胸を痛めた」とあるが、「私」が「T君」に対して「無力」だと感じたのはどうしてか。本文に即して六十文字以内で説明せよ。

[illegible]

問五 本文についての説明・批評として明らかに誤っているものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ 工場などについての具体的な描写からは、筆者の視線が人間の迷惑をこえたものに向けられているということが感じられる。

ロ 真摯に物を作ろうとする人の営みと、世の中との関係といった問題が、さりげなく示された文章だといえることができる。

ハ 工場というものの魅力について、それが子供の純粋な感性でこそとらえることが可能だということを主張しようとした文章だと考えられる。

ニ 自分の生きている世界全体がどのような仕組みになっているのかといった問題について、筆者が思いを馳せていることがうかがえる。

第五問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

時をへだててメッセージを伝達する方法のうちには、二つの根本原理を識別できるたろう。一つは、持続性の大きい物質にしるしづけられた原初のメッセージが、変化せず¹にのちの世に伝わることを願うものであり、他は、それ自体としては滅びやすい媒体に託されたメッセージを、媒体を更新し、原初のメッセージを再生することによって、時の中に持たせようとするものである。二つの原理それぞれの典型は、第一のものは古代エジプトのピラミッドと王のミイラのうちに、²第二のものは口頭伝承のうちに、いずれもアフリカ大陸に見出される。

注目すべきは、第一のものが、必ずしも第二のものより有効性²が大きいとは限らないということである。アジアからいくつかの例をとろう。秦^{しん}の始皇帝^{しやうわうてい}は、己^{おのれ}の偉業を後世に伝えようとして石碑に文字で刻ませたが、逆説^{さくせつ}的にも、もとの石に記された文字は読めなくなり、木や紙に書き写されたものが、長い歲月のあいだ写しつがれて近代まで伝わっている。天皇家の先祖を祀^{まつ}っている日本の伊勢神宮は、もう一つの例を、テイキョウする。この神社の本殿は隣りあつて並んだ二つの敷地に交互に建てられるので、一方は常に空き地になつてゐる。二十年ごとに、空いてゐる方の敷地に、檜^{ひのき}の白木で同じ社を建て、古い社を壊す。このようにして、最初の建造から一千年以上経つたいまでも、原初のモデルを真新しい状態で目にするのが可能なのである。

〔出典〕
川田順造

『口頭伝承論』

〔著者出題歴〕

・ 千葉大学

・大阪府立大学

・ 亜細亜大学

• 上智大学

・早稲田大学

③ この方式によれば、原初のメッセージの複数のコピーを得ることができるが、それは、右に述べた第一の原理に基づく方式でしばしば起こる、メッセージの完全な喪失の危険を避けるための利点でもある。しかしながら、この更新によるメッセージ伝達の方式は、同時にまた、原初のメッセージの、意図的、無意図的な変形の可能性も含んでいる。変形あるいは脱落は、文字に記されたテキストの書写でも起こりうることだが、口頭による伝承の場合の方がその可能性はさらに大きいといえる。

④ 口頭伝承の媒体としての声については、次のような特徴を挙げることができる。声の第一の特徴は、その極度の非持続性にある。これは発信しおえると直ちに消滅してしまうコミュニケーションの方法だ。第二は、音声言語を用いることによって可能になる高度の分節性であって、これは他の音のコミュニケーションの方法——たとえばタイコ、笛などの音具を用いた伝達——から声を区別するものである。第三は、その情動性とも呼べばよいが、人間の理性以前の部分に、直接、深く浸透する力——これが声の力をなしてもいるのだが——を挙げなければならない。判決、ミサ、祈禱、呪い、誓い等々は、常に生の声で発せられなければならない。しかし、口頭伝承において重要なのは、なにかんずく声の喚起力だ。想像されたもの、忘れられていたもの、意識の底にかくれていたもの、あるいはまったく非現実のもの、精神世界のみにかかわるもの、いずれにせよ、目に見えないもの一切を、声は人の心の中にいきいきと呼び起こす力をもっている。歴史的品格をもった物語の場合、過ぎ去ったこと、かつて生きていた人たち、彼らのなしとげた偉業などを

めぐる想像を喚起し、活力を与えるのは声なのである。

⑤ 声によるコミュニケーションの機能のうちに、私は次の三つの側面を識別すべきであると思う。すなわち、情報伝達の側面、行為遂行的側面、そして、これまでこの側面について述べた研究者がなく、名称がなかったのだが、私が演劇的側面とも名づけたと思う側面である。この側面は、以下に述べるように、声によるコミュニケーションにおいて根本的な重要性をもっているのである。

⑥ 情報伝達の側面にとつて大切なのは、発話内容の真実性と新しさであり、ニュースや学術報告において、この側面は決定的な意味をもっている。

⑦ 儀礼言語に典型的に表れる行為遂行的側面においては、カンヨウなことは発話者がその状況で発話する資格をもつか発話がその状況にとつて適切なやり方でなされるかどうかということである。発話者がその状況で求められている発話を巧みなやり方で行うかどうかは——巧みであることがたとえ望ましいにせよ——、本質的に重要なことではない。そして、一般にこの種の発話は新しい情報を含んでいない。

⑧ 演劇的側面にとつては、真実性も、情報としての新しさも問題ではなく、発話のポヨウラク的価値、つまり語りの巧緻性が大切なのである。昔話や、日本の古典的な滑稽物語である「落語」をはじめ、多かれ少なかれ、「古典的」なレパートリーのある話芸すべてにおいて、受信者は、とくにその話芸の愛好者であればなおのこと、発話内容をすでに知りつくしている。それにもかかわらず、語り手の才能と巧みさによって、聴き手は語りを聞く

ことを楽しむのである。

これらの三つの側面のうち、とくに第二と第三の側面で、声は他のもので代替不可能な役割を果たす。第一の側面については、発話が文字で書かれたとしても、発話の伝達上の価値は変わらないたろう。ここではコミュニケーションの鍵となっているのは、文字に直しても伝達上の意味の変わらない発話の分節的特徴である。これに対し、第二の側面では、判決の申し渡しに明らかな例をみるように、発話は声によつてなされなければならない。ここでは、決定的な役割を果たすのは声のもつ力だ。第三の側面においては、大切なのは音声言語の超分節的特徴や声の音質などだが、これらのものは、もし発話が文字で書かれれば完全に消えてしまうし、発話はその価値の本質的部分を失うことになる。

傍線部 a ～ d のカタカナを漢字に改めよ。

a

b

C

d

問二 傍線部1「第二のもの」とあるが、これには、欠点と思われる性質がある。それはどのようなことか。それを言い表した二十五字以内の部分本文から抜き出し、その最初と最後の二字ずつを答えよ。

§	

問三 傍線部2「第一のものが、必ずしも第二のものより有効性が大きいとは限らない」とある

が、その理由を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

イ ある時代に達成された偉業を書きしるしておいても、時が経てばその偉業自体が無意味なものになってしまうことが多いから。

口 歴史のなかでは、持続性の大きい媒体にしろされたメッセージよりも、滅びやすい媒体にしろしたそのほうが、つねに長持ちするものだから。

ハ時が経っても変化しないメッセージより、変化していくメッセージのほうが、歴史のなかでは意味をもっているといえるから。

ニ
メッセージを**持続性**の大きい物質にしるしたとしても、長い年月のなかではその物質が損傷してしまうことがしばしばあるから。

ホ
時をへだてて伝達されるメッセージは、原初のかたちのまま複数のコピーをとつておく
ことでしか、後世に伝えることはできないから。

問四 傍線部③「口頭伝承において重要なものは、なかなか声の喚起力だ」とあるが、これはどういうことか。本文に即して六十字以内でわかりやすく説明せよ。

[illegible]

問五 傍線部4「この側面は……もっているのである」とあるが、「この側面」を生かしたコミュニケーションのあり方を説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 語り手は巧みな音声言語によって情報を伝達し、聴き手はその発話内容が真実かどうかを検証しようとする。
- ロ ある状況において情報の発信をする資格を備えている発話者が、その場にふさわしい情報を発信し、受け手はそれを受信する。
- ハ 文字によって伝えたほうが正確に伝わる内容を、あえて音声言語で伝えることによって、聴き手を楽しませようとする。
- ニ 文字だけでは伝わりにくい内容を、音声言語を併用することですの不備を補いながら、受信者に対してより正確に伝えようとする。
- ホ 音声言語の特徴を生かした巧みな語りによって、たとえ既知の内容であっても、受け手はそれを楽しんで受信することができる。

問六 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- イ 人間の声には、文字の伝達力とは別の、人の感情に直接働きかける強い力がある。
- ロ 声の欠点は非持続性にあるが、それを克服する音声言語のあり方を模索すべきだ。
- ハ 人の声のもつ情報伝達的な機能を、声以外のもので代替することは難しい。
- ニ 音声言語の魅力は、文字言語よりも高度の分節性を備えている点にある。
- ホ 声を媒介にした口頭伝承においては、メッセージは最終的に消滅してしまう。

文学と倫理

第六問 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① 小説や戯曲においてきわめて重要な選択のひとつに、倫理の基準点をどこに置くかということがある。大雑把に言えば、倫理の基準点を社会の側に置くか、あるいは個人の側に置くかで、作品世界の色合いはまったく違ってくる。

② 倫理を社会の側におけば、当然のことであるが社会との摩擦は小さくなる。たとえばそれが勧善懲悪であったり、弱者に対する同情であったり、差別や不平等に対する告発であったりすれば、作品は社会から好意をもって迎えられる。小説や戯曲にとって社会的な正義を有するかどうかは常に重要なファクターであり、逆に言えばその時代の社会正義から大幅にイッダツ^aすることは往々にして自殺行為となる。

③ これに対して主人公の倫理を作品の倫理基準として採用する場合もある。主人公が体制側の人間であれば、作品の倫理が社会正義とかち合うことはないが、体制から外れた側の人間であったり、あるいははっきりと反社会的な人間であれば、作品もまた反社会的倫理基準を持つことになる。

④ その場合でも、主人公がたとえば少年少女であれば未熟を理由に許されるし、恋愛至上主義者であれば、たいがいのことは大目にみられる。ただそうした陰に隠れて、時に少年少女小説や恋愛小説が社会的な倫理と過激な対立をみせることがあり、こうした小説の醍醐味は存外主人公の社会批判にあったりする場合が多い。ただ現在にあっては無垢なる少

〔出典〕

小林恭二

『家族の夢』

〔著者出題歴〕

- ・流通経済大学
- ・獨協大学
- ・帝京大学
- ・京都産業大学